

ふた

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2024.WINTER



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. **47**

授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

新大メモリアル写真館 あのと看、あの場所

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集

スイングバイ・プログラム
〜若手研究者の一括採用による育成〜



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



Cover Photo

2023年12月、雪の降る五十嵐キャンパス(事務局棟より)

2024.WINTER No.47

CONTENTS

- 03 特集
スイングバイ・プログラム
～若手研究者の一括採用による育成～
- 08 授業紹介 **教育の現場**
- 09 Enjoy! **学生ライフ**
- 10 注目される**研究報告**
- 12 教員によるコラム**“知見と生活のあいだ”**
- 13 **新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所**
- 14 **基金関係のお知らせ**
- 16 **Campus Information**



令和4年度スイングバイプログラム第1期教員研究活動中間報告会の様子。学長や理事に対し、研究活動中間報告を行った

2021年度よりスタートしたスイングバイ・プログラム。大学を取り巻く全国的な若手研究者不足に対する新潟大学の制度の一つであり、優れた若手研究者の確保と育成のために若手教員を一括採用、様々な支援をして育成している。3年が経過したプログラムのこれまでの成果や今後の展望について特集する。

特集 スイングバイ・プログラム 若手研究者の一括採用による育成



理事 [評価・教員組織 担当]・副学長
澤村 明

**若手研究者の
一括採用と
融合研究への挑戦**

新潟大学では、国内外で活躍する優秀な若手研究者を分野を超えて一括採用し、それぞれの専門の研究はもとより、分野をまたぐ融合研究へと展開していくための環境整備や、確実な研究資金獲得のための支援等を行う「新潟大学若手教員スイングバイ・プログラム」(若手教員一括採用育成制度)を2021年度から実施している。採用者は学系等に所属して教育研究を行うとともに、若手研究者等の育成・支援を担う研究統括機構を兼務。専門分野を高めると同時に、既存領域を超えた新たな展開に挑戦できるように様々な支援が受けられる。まずは澤村理事「評価・教員組織担当」、副学長が制度設計の

**若手研究者の
登録機会をつくり
魅力ある大学に**

経緯と趣旨について語ってくれた。

「時代の移り変わりで、研究者が必要となる研究分野も変わってきています。国立大学法人化以降新潟大学では、教員が所属する教員組織(学系・系列)と担当する教育組織(学部・研究科)を分けるとともに定員での管理から人件費をポイントに換算した『人件費ポイント』での管理(ポイント制)へ移行するなど改革を進めてきました。また、様々な議論の中で、優れた若手研究者を登録する機会を作らなければ大学の未来はないという意見も出てきました。そこで学長の裁量で運用する『学長裁量ポイント』を捻出し、大学の経営や機能強化につながる取組に配分したのです。そのポイント制を活用したのが、若手教員一括採用育成制度である新潟大学スイングバイ・プログラムです」

この制度では全学的視座で優れた若手教員を採用するため、大学の将来ビジョンの実現や強みの伸長といった観点も踏まえ学長や理事が直接選考に携わっている。採用後も研究報告会や懇話会など、学長や理事と直接対話ができる機会があるのも特徴だ。




『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

-  @niigata.univ
-  @Niigata_Univ_O
-  @niigata_university



2022年の新潟大学WeeKで開催されたイベント「研究者とバーチャル旅行へ出かけよう!」。スイングバイ・プログラム採用教員1人のアイデアを同期が集まり形にした

にも積極的にエントリーする気概があります。若手教員研究奨励のための学長賞を2023年度に受賞した7人のうち3人がスイングバイの採用者でした。また、研究をアピールするシンポジウムやイベントを自発的に開催し、高校生や大学院生たちへ研究の面白さを伝えてくれました。師匠の背中から技術を学んだ昔前とは違い、現代の若手育成には制度が必要です。総合大学である新潟大学には全学部の大学院があるので、ポストドク（博士号の取得後に大学や研究所のポストに就

かず、研究職を続ける研究者)からスイングバイに繋がるルートも整備も検討したい。スイングバイには大学全体のレベルの底上げにつながる人材確保のヒントがあるように思います」

異分野の研究者と 気軽に話せる コミュニティがある

**異分野の研究者が
気軽に意見交換
融合研究の契機に**

続いて話を聞いたのは農学部の大谷真広助教。新潟大学で学位を取得後、博士研究員や特任助教を経てスイングバイ・プログラム1期生として採用され、1期生の代表を務める。

「このプログラムは若手研究者に様々な支援を与えてくれますが、まず任期のないパーマネントな採用であることで研究を続ける上で精神的な安心感を得られます。また、プログラムの同期の存在は大きく、彼らとは研究者としてのライフワークバランスなどについても同じタイミングで考え、



農学部 大谷真広 助教

新潟大学WeeK2022 スイングバイ・プログラム採用教員プレゼンツ

研究者とバーチャル旅行へ出かけよう!

小学生～大人までどなたでもOK! VRツール盛りだくさん! 参加申し込みが必須 (完全無料)

会場: 新潟大学 駅南キャンパス ときめいと 多目的スペース 申込はこちら! & オンライン (ZOOM)

10月22日 (土)

①10:00-11:10	そうだ、南極に行こう!
②13:00-14:10	火星の歩き方
③15:10-16:20	海洋研究船での観測と暮らし

10月23日 (日)

④10:00-11:10	そうだ、南極に行こう!
⑤13:00-14:10	火星の歩き方
⑥15:10-16:20	地球へ帰ろう

各回のプログラムは次の二部構成で行います。 最先も感あるよ!

研究者のクレストークによる研究世界ご案内

体験タイム/VR体験、研究者なりせり体験など

話せることが多い。職場内に友人のような気軽な関係があるのは非常に心強いと感じます。この関係性があることで、誰かが思いついた企画を同期で協力してイベントとして実現することにもつながっています。また、何より貴重なのは異分野の研究者と意見交換ができる環境があることです。私は植物の見た目に関わる形質を決めるメカニズムの解明や、遺伝子組換えやゲノム編集など技術を用いて有用な形質をもつ新品種を創り出す研究を進めています。また、南極に自生するコケ植物の環境適応メカニズムの解明にも取り組んでおり、最終的には極寒地や砂漠などのような厳しい環境でも問題なく育つ植物を作りたいと考えています。他分野の研究者と話をしている



2023年12月に開催されたシンポジウム。スイングバイ・プログラムの活動状況と課題が発表され、今後の展望について議論が交わされた

未来を担う優秀な若手研究者育成には 大学として実施する支援制度が不可欠

**若手研究者が
研究に専念できる
職場環境を**

一方で、若手研究者にとって魅力ある研究・職場環境を作るといふ側面から話をしてくれたのは、末吉邦 理事「研究・大学院担当」・副学長だ。

「他大学などから本学に採用された若手研究者は、まず新潟大学の仕組みがよく分からないので、採用後に研究に取り組み環境を整えるのにも時間がかかり、研究がスムーズに進まないという課題がありました。少しでも早く研究に取り組みることができ環境を作るといふのもこのプログラムを作った目的の一つなのです」

この制度で採用されるのは研究者としての経験が浅い世代。採用後3～5年程度は学系・部局と研究統括機構に兼務し、スタ



理事 [研究・大学院 担当]・副学長 末吉 邦

**大学全体の
底上げにつながる
ヒントがある**

スイング・バイプログラムはスタートから3年が経った。3年間で44名が採用され、大学全体の若手教員(40歳未満)の20%ほどの規模になる。このプログラムで採用された教員に対し、どのような印象を持っているのか。再び澤村理事に聞いた。

「これは若手教員全体にも言えることですが、非常にコミュニケーション能力が高く、自分の研究を専門外の人にも分かりやすく説明できます。また、将来のビジョンが明確で、情熱が感じられ、優秀なだけでなく学内の研究賞





定期開催している若手教員と大学院生の交流イベント「はかせと」。2022年8月に行われたこの回のテーマは「博士の未来を考える座談会」。宮下聡助教が、自らの経験に基づき研究者のワークライフバランスについて話し、大学院生の将来への不安や疑問に向き合った

分野を横断して 深まるディスカッション さらなる研究進展に期待

と自身の思考が整理、ブラッシュアップされ、思いがけない指摘やアイデアから受ける影響はとても重要です。火星について研究する理学部・野口里奈助教との共同研究は同期会の存在があつてこそ「のものです」

両助教は、火星模擬土壌を用いた「火星米」の栽培試験に取り組んでいる。火星での稲栽培に必要な水と土壌は現地調達を想定。地球とは異なる火星の土壌

でも稲の栽培が可能なのか、探査データを基に作られた模擬土壌を用いて栽培試験、最適品種・育成条件の調査を行っている。

「実際に火星に住める時代が来た時のための技術開発です。農学は現実世界で研究することが多い学問ですが、他分野の研究者との交流の中で宇宙という気の遠くなるような大きなスケールで物事を考えられるようになりました」

このプログラムをきっかけにした融合研究はこれにとどまらない。同期の間だけでなく、期をまたいだ交流も行われており、それが融合研究を生み出す土壌となっているのだ。農学部の氷見理助教（1期生）と脳研究所の井上貴博助教（2期生）は中山間地域における畦畔の草刈り作業の身体的負荷に関する研究を行うなど、すでに複数の融合研究が生まれている。

新分野を切り開く 顕著な業績と ユニークな研究

では、スイングバイ・プログラムは新潟大学の研究推進において具体的にどのような成果が上がっているのか。再び末吉理事は語る。

「採用された教員たちは、ブラックホールの観測やシロアリの王と女王の長寿機構、食品の固さの光学測定など、新しい分野を切り開くことが期待されるユニーク

スイングバイ・プログラムの 成果と課題を新潟大学全体の 若手研究者に波及させていく

な研究を進めています。制度の開始から2023年度までに学長賞を6名が受賞し、創発的研究支援事業に1名が採択されました」

この成果の背景には、前述の農学部・大谷真広助教も触れていた同期コミュニティの影響が大きいという。文理の垣根を越えて若手研究者同士のディスカッションが深まることで、個人の研究はさらに深く幅を広げ、加えて融合研究の進展も期待される。

「プログラム採用者同士の交流により、分野を横断した様々な融合研究が生まれています。さらにプログラムの外へもネットワークを広げて、どんどん新しいことに挑戦してほしい。新潟大学は地域に根差した総合大学ですから、今後は地域特性を生かした研究にも期待しています」

新潟大学の研究力を 推進する 大きな力として

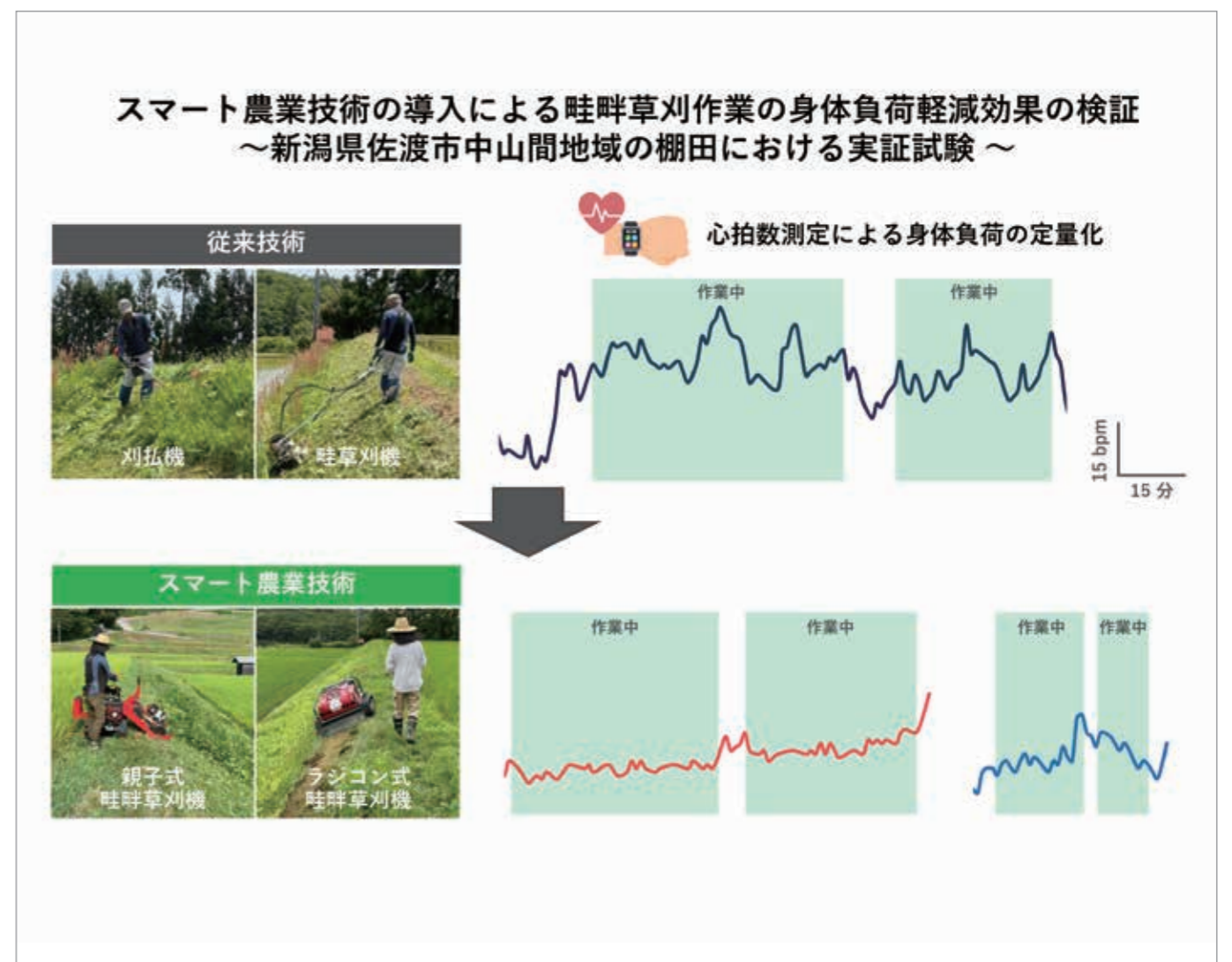
「スイングバイ」という言葉は元々、宇宙科学に関する用語。

天体の重力を利用して、軌道を変更する技術を意味する。研究者は出身の大学や師と仰ぐ教員の影響を大きく受けるものだが、それらの重力を受けつつも、さらに未知の世界に向かって仲間とともに羽ばたこうという思いを込めて、このプログラム名が付けられた。

「スイングバイ・プログラム採用者には大学から様々なサポートが受けられますが、それらを通して大学教員の役割を俯瞰してみる力、つまり、教育も研究も両輪でバランスよく取り組むという視点を養ってほしいと思います。その視点は将来、研究室の学生を指導し、研究費獲得に必要な代表研究者としての資質を身に着けることにつながるはず。そのためにもプログラムに対する学内の理解をさらに深める必要があります。現在、若手研究者が置かれた環境は平等というわけにいかず、部屋の広さや課された講義の数などは部局によって様々です。将来的にはスイングバイ採用者に限らず、若手研究者に対する部局のサポートは可能

な限り揃えるべきと考えています。この制度で採用された教員との交流を通して若手研究者の置かれる状況が見えてきました。それらの課題を、新潟大学全体の改善につなげ、若手研究者全体に波及させていきたいと考えています」

新潟大学は本州の日本海側では最大規模の総合大学として、地域に根差し、地域との共創を推進しながら、未来志向でかつ世界に伍する教育・研究を展開することを目指している。若手研究者の育成と活躍はその推進にとって必須だ。



氷見理助教（農学部）と井上貴博助教（脳研究所）による共同研究では、中山間地域の畦畔の草刈り作業における従来技術とスマート農業技術での身体的負荷を比較するため、リハビリ分野で用いられる心拍数測定という手法で評価を行った



プログラムのロゴマーク。スイングバイの軌道をモチーフにして教員が考えたもの

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑部員は25名。基本的に緩めの雰囲気、様々な学部で活躍する部員が在籍。学年を超えて活発に交流している。

将棋部

集中力・忍耐力が鍛えられる
地域交流にも力を入れて活動

「県名人から観戦中心の『見る将』まで様々な部員が在籍。普段の対局はもちろん、対局から離れた活動も将棋部の面白さだと思います。部活終わりにご飯を食べに行ったり、部員同士で将棋以外のボードゲームやカードゲームをすることもあります」と部長の花岡征吾さん。部員の多くが目標にしているのが年2回、北信越地区の国私立6大学により行われる北信越学生将棋大会だ。2023年度は、春に個人

戦3位、団体戦準優勝。秋は個人戦の優勝、団体戦の準優勝など好成績を取めた。「競技の性質上、集中力・忍耐力が鍛えられます。また物事を逆算し、ゴールから考える力も身につくと思います」。将棋を通じた地域交流にも力を入れていて、毎年駅南キャンパスときめいとで将棋イベント「将棋を指そう!」を開催している。小中学生を中心に卒業生や一般の方も参加。部員たちにとっても楽しい企画になっている。

→週2回、主に学生会館で活動する。兼部も可能な気やかな雰囲気もあって、活動日には自然と人が集まる。



初心者もちろん大歓迎です

部長
花岡征吾さん
(法学部2年)



新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、随時お届けします！ぜひダウンロードください。




下保敏和准教授

Toshikazu Kaho



Profile 博士(農学)。教育学部教科教育専攻准教授。専門は農業機械、農業情報工学、農業ロボット、農業情報のデータ化などスマート農業を研究。



栽培Ⅱ

栽培で用いられる農具や農業機械の基本構造を理解

教育学部の教科教育コースで、「技術」の中学校教員免許取得を目指す学生の必修科目。生物育成の基礎「栽培Ⅰ」を履修済みの学生が対象で、栽培管理計画を立てる際に必要となる温度や湿度、風速、日射量、騒音などを測定する環境計測装置の特徴や活用方法、機械制御で用いられる基本理論

について学習する。担当の下保敏和准教授に聞いた。「農業機械を安全に操作するための基本的知識の修得や、作業効率を考慮して必要な機材や資材を選択して作業計画を立てられるようになることが狙いです。内容はやや専門性が高く、機械制御の基本的理論の理解や、計測値から状況分析が

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

教育学部

STUDENTS VOICE



左:永井 彩さん(教育学部2年)

右:畑 萌さん(教育学部2年)

「栽培と聞くと植物を連想することが多いと思いますが、土や水、光、農業機械など植物に関わる幅広い内容を学んでいます。教員になるために様々な知識を身に付けたいと思います」(永井)
「栽培について学べる研究室を希望しているので、とても大切な授業です。少人数制の授業なので周囲とコミュニケーションがとりやすく、先生にも質問しやすい環境です」(畑)

「目標を達成するための制御方法を検討できるようなことなど。彼らが将来指導する中学生が生物育成に興味を持ち、その技術や知識を通して生活や社会との関わりまで発展的に考えてもらえるような指導を心がけています」
講義形式の授業では実際に機械の動きに触れることが難しい。そのため下保准教授は、栽培に関わる身近な題材や最新の話題を例に挙げ、学生がイメージを持ち、



思考を深められるような発問を工夫している。また、様々なセンサーを搭載した小型の測定機器も教室内に持ち込まれる。この日は光を計測する機械がテーマ。身近にある蛍光灯の構造から授業がスタートした。授業は少人数で行われるので教員と学生の距離が近く、下保准教授からは「中学生はこんな話に興味を持つかも」などの声掛けも。丁寧な指導が印象的だ。
「ひとつのテーマから視野を広げ、幅広い知識を得ることができる授業です。学生は技術関連の電気や数学、化学なども学んでいるので、他分野の知識を組み合わせることで考える能力を育んでほしい。たとえ教員以外の職業に就いたとしても、知識の引き出しの多さは必ず役に立ちます」



病気と闘う子どもと、その家族と一緒にいられますように。

—小児医療宿泊施設— **ドナルド・マクドナルド・ハウス** にいがた

ハウスの運営は100%皆様からのご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

2022年
10月オープン

詳細は 新潟大学 ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた 検索

お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学の特徴ある研究トピックを紹介 注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究
題目

栄養不良地域における 日常・緊急時の栄養源としての地酒の役割

諸栄養が不足する地域特性や食文化を理解 食事としての酒の可能性を見出す

一般的に酒は「嗜好品」に分類されるが、アフリカやアジアには、酒を「食事」として摂取する地域がある。栽培できる作物種が少ない地域に多くみられ、住民は酒を栄養源として摂取している。砂野唯助教は、酒を食事することを可能とする要因について、生態人類学的なアプローチから研究している。

「穀物を発酵させた醸造酒は、栄養源となる食物の種類や量が限られる地域でも造られており、エチオピアやネパールには酒を食事とする習慣をもつ農

村があります。栄養獲得が困難な地域における食糧生産・貯蔵・加工・消費と、さらに酒が健康維持にどう貢献しているのかを、フィールドワークを通して調べています」

現地を訪れて人びとと寝食を共にしながら聞き取りや参与観察を行い、食糧生産から貯蔵、加工、なかでも地酒の科学成分、健康状態に関するデータ分析にも注力している。モロコシなどの穀物をアルコール発酵させることで、栄養価が向上していることを明らかにした。

「対象とした地域では、外からは栄養不良地域と見られていても、実際に現地住民の体つきや身体機能を解析すると、意外に十分な栄養が摂取されていることが分かりました。また、エチオピアの農村で作られている『パルショータ』という醸造酒の成分を分析した結果からは、発酵により必須アミノ酸をバランス良く含む良質なタンパク質が作り出されていることも分かりました。アルコール度数を抑えた酒から、一日に必要なカロリーやタンパク質を補給し、それを毎日の食事として摂取することで、健康を保っていると考えられます」

醸造酒の主原料となるモロコシは、環境適応性が高く、近似する自然環境や食文化を持つ他の地域でも栽培



↑タンザニアの醸造酒。トウモロコシ粉末に発芽種子を加えて糖化し、アルコール発酵させている



↑ヤシの樹液を原料にしたインドネシアの醸造酒と蒸留酒

が可能とされている。砂野助教は、栄養状態改善を図る方法のひとつとして、酒を食事とする習慣に注目している。

「醸造の材料や環境は地域ごとに様々ですが、その地域で栄養源となる酒は、地域内の材料や菌、独自の醸造方法で造られるため、自然・人的災害の余波を受けにくく、閉ざされた環境下での栄養充足に寄与し得ます。嗜好品ではなく食事としての酒にフォーカスを当てることで見てくることは多く、適切に摂取すれば健康増進や薬になることもあります。引き続き各地の地酒の特徴や成分分析、摂取効果を研究し、飢餓や栄養不良の問題解決に寄与したいです」



創生学部
砂野 唯 助教

Profile | 博士(地域研究学)。専門は地域研究学、生態人類学。酒を食事とする地域でのフィールドワークを通して、食文化形成における酒の役割について研究を進める。スイングバイ・プログラム採用教員(2期)

研究
題目

「化学の視点」から副作用の少ない創薬を目指す ～四重鎖DNAを用いた独自創薬モダリティ「IRDaptamer」の開発と応用～

新規創薬モダリティ開発で がん治療薬や治療法の発展に貢献

がんは現在、日本人の死亡原因の第1位。全体死亡者の3人に1人ががんで死亡、また、死亡するまでに2人に1人ががんになるといわれている。がんの代表的な治療法は抗がん剤によるものだが、一般的な抗がん剤は正常細胞の分裂にも悪影響を与えることも知られていて、副作用による生活の質の低下や抗がん剤に対する耐性細胞の出現、2次がんの発生など、いくつかの問題点が存在している。そのため、がん細胞に特異的に働きかけるための分子標的薬の開発が課題になっている。

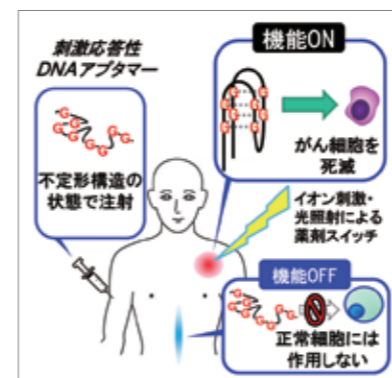
このような状況に対して中馬吉郎准教授は、治療薬の開発やがんを含む疾患メカニズムの分子レベルの解明、

がんになる前に原因を見つける高感度な検査手法やセンサーなどの機能分子開発に取り組んでいる。

「抗体医薬は世界の医薬品の売り上げの半分以上を占め、標的をピンポイントで狙えるため高い治療効果が期待できます。しかし一方で、開発に時間とコストがかかることや、副作用のリスク、標的分子の枯渇、抗体は大きく細胞内を標的にできないなどの課題もありました。そのため新規創薬モダリティの開発が解決策になるのです」

中馬准教授が独自に開発したのがイオン刺激応答性 DNA アプタマーだ。細胞内を標的とすることが可能な新規創薬モダリティとして創薬業界の課題克服に貢献可能だという。

「イオン刺激応答性 DNA アプタマーには、3つの独自機能があります。1つ目は細胞膜透過性です。疾患原因タンパク質の7～8割の分子が存在する細胞内を標的とすることが可能です。2つ目はイオンや光などの外部刺激による薬効のオン/オフ制御です。がん細胞に対しては機能をオンにして死滅させ、正常細胞に対しては機能をオフにし作用させません。3つ目は多様な疾患原因タンパク質に適応可能な点です。私たちの研究室では膨大なタンパク質のライブラリを保有している



↑刺激応答性DNAアプタマーの独自機能のひとつ。イオンや光といった外部刺激により薬の効果のオン/オフスイッチが可能



理学部
中馬吉郎 准教授

Profile | 博士(理学)。専門は生化学・分子生物学。新潟大学研究統括機構 研究教授。

ため、ターゲットに対して1対1で対応する薬の探索が可能です」

イオン刺激応答性DNAアプタマーの開発を通じ、関連する「核酸アプタマー及びその使用」が2023年4月に特許を取得。現在も核酸アプタマー組成物、抗がん剤、がん治療キットに関する特許を出願中だ。

「学内外の多分野の研究者との共同研究も積極的に進めています。これらの成果を社会実装し、がん治療や疾患の早期検知に貢献していくことが目標で、治療薬や治療法の開発が化学者としての社会貢献につながると考えています」

特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料



入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
(受付時間 平日 10:00～15:00)
E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

2024年、
新潟大学は
創立75周年を
迎えます



新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所



↑平成15(2003)年頃の歯学部附属病院。桜は歯学部の創立10周年を記念して、昭和50(1975)年5月31日に植され、歯学部としては非常に大切な桜である。今は国道116号線の拡張計画により平成16(2004)年から翌年にかけてしっかりとした根回し作業の後、セレモニーホール平安会堂側に移植された。毎年、早咲きの桜として見事な花をつけている。

←医学部附属病院と統合する前、平成21(2009)年頃の歯学部附属病院と歯学部。手前の歯学部附属病院の3階には40床の病室があり、手術室も同じ階に設置されていた。歯科病棟処置室の避難路として、らせん状の滑り台が見えるのも懐かしい。



たかぎりつお
高木律男
新潟大学名誉教授

歯学博士。専門は口腔外科。昭和55年、歯学部卒業。同助手の後、一度退職し新潟県内の病院に勤務。昭和62年、再び歯学部助手に。同助教授等を経て平成10年に歯学部教授。平成22年に医歯学総合病院副院長に就任。令和3年、定年退職。

長野県飯田市出身の高木律男名誉教授は、歯学部の10期生。学年対抗球技大会のサッカーの試合で偶然に決めたゴールがきっかけでサッカー部に誘われて入部。授業と並行し、部活動に熱心な学生生活を送った。

「先輩や後輩との関係性、礼儀とスポーツマンシップの大切さは、この時代に身に付けてもらったものだと思います。口腔外科を志したのは、臨床実習で患者さんと話をしながら治療することが楽しかったのも理由のひとつですが、親しい先輩が口腔外科にいたからという方が大きい気がします。大変お世話になった口腔外科学第二講座の先代、故大橋靖名誉教授からはサッカー部の後援会長やゴルフ部の顧問も引き継ぎました。サッカー部の仲間とは今でも仕事の情報交換やゴルフで一緒に楽しんでいます」

自身の学生当時は荒々しい男らしさがあるが、はやされた「バンカラ」な時代。今の学生たちは講義後に質問にくるなど「きめ細やかで真面目」と言う。

「歯学部は知識だけでなく技能が大切である上に、臨床実習では患者さんとのコミュニケーション力を養う必要もある。さらに昔と違い卒業試験もあり、遺伝子分野など領域

も広がっています。私の学生当時のレベルだったら確実に落第するなと思います(苦笑)」。教員時代の出来事の中で特に印象的なことは、平成3年の文部省在外研究員としての渡米だ。

「海外研修で得られたものは計り知れません。研究だけでなく、留学先でお世話になった先生方、同時期に留学中だった日本人の先生方とのつながりは、日常の臨床と離れた所での貴重な経験で、帰国後も大切にしてきました。異文化に触れることで、人間的にも成長の機会を得ることができたと感じています」

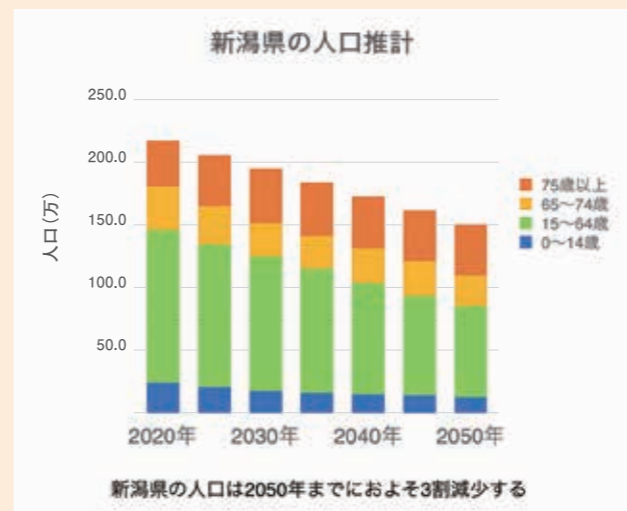
医歯学総合病院への統合に伴う様々な環境の変化や、校舎の耐震構造への改修・改築も目の当たりにしてきた。

「川の流れに身を任せてきた一片の葉のような自分ではありましたが、新潟大学の歯学部での学生、教員時代の中で得た一番の財産は人間関係だったと思います。知識や技術の基本を学ぶ時間でもありましたが、その後の人生で出会う多くの方々や患者さんと接するために必要な人間的な土台のようなものが形成され、今に至るまでの私を形作ってくれたのです」

COLUMN ◆新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第29回は医学部です。

第29回●医学部「人口減少社会を生き抜く鍵は他者とのつながり」



新潟県の人口は2050年までにおよそ3割減少する、という人口推計を国立社会保障・人口問題研究所が2023年末に発表しました。“地方消滅”は10年前に有名になったワードですが、日本はいよいよ急激な人口減少のフェーズに入っています。人口問題は全体の減少よりも、生産年齢人口(働きの盛り人口)が減少し、高齢者(中でも後期高齢者)が増加することが大きな課題です。働き手が減ること、電気・ガス・水道といったインフラ、物流、その他の様々なサービスの供給が危ぶまれています。コンビニの24時間営業見直しは2019年頃から始まっています。救急車の

利用も軽症や入院しなかった場合に有料化する自治体が出てきました。物流を担うドライバー不足は深刻な問題です。高齢になると需要が増す医療と介護も、今、当たり前に行われるサービスが、将来は受けられなくなるかもしれないのです。さて、悲観的な導入となりましたが、救いはないのでしょうか？ロボットやAIといった情報技術に光を見いだすことができるかもしれません。しかし、私が注目したいのは、「人と人とのつながり」です。孤独や孤立はタバコを毎日15本吸うのと同じくらい健康に悪い、という科学的知見が有名です。他者とのつながっている感覚や、他者の役に立っている実感は即ち、生きる理由や生きる力、いわば、生きがいに直結します。反対に他者とのつながりがないと、人は自ら生きる意味を見いだせずに健康を害し、早死にするとまで言われているのです。

便利さや効率を優先して発達してきた社会は、人口増加が前提でした。これからの人口減少社会では、不便でありながらも他者とのつながり、他者の役に立つことで生きがいを感じようか。印象的な

エピソードがありました。10年以上前ですが、豪雪災害で県内の山間部にある集落が孤立した際に、医療チームが特殊車両で現地を訪れたときのことです。交通が遮断された集落で、人々は助け合って暮らしていたそう、なんと、医療チームは漬物とお茶をご馳走になって帰ってきたというのです。場所は違いますが、私たちが追跡調査をしているミャンマーの高齢者でも、政情不安定なこの3年間を生き延びるのに有利に働いたのは、人とのつながりでした。人類が初めて直面する人口減少という局面で、豊かに生き抜く知恵は、すでに不便でも互いに助け合うことが日常となっている地方にこそあるのかもしれない。



くすはら ゆひこ
医学部総合研究科
十日町いきいきエイジング講座
特任教授

公衆衛生が専門。十日町市はじめ新潟県内の市町とミャンマー、マレーシアにおける社会疫学調査から健康長寿の要因を探索している。

新潟大学
リサイクル募金

読み終えた本や不用品が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

お申込み

0120-29-7000

(受付) 9~18時
(運営) 暖視野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

TEL. 025-262-5651, 6010

真の強さを学ぶ
新潟大学
NIIGATA UNIVERSITY

■トピックス

「令和5年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を開催しました

本学は、「令和5年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を、12月1日に市内ホテルで開催し、倶楽部会員、学生、大学関係者の計126名が参加しました。毎年、サポーター倶楽部会員の皆様に、支援を受けた学生からの謝意や特色ある活動をお伝えする場として「新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を開催しております。報告会では、同倶楽部の支援を基に実施している本学独自の制度による奨学金を受給している学生4名から支援に対する感謝と共に、研究活動や課外活動などの大学生活や自身の体験、将来の夢などについて発表がありました。



ダイジェスト動画公開中!



当日の報告会・情報交換会の様子を新潟大学公式YouTubeチャンネルで公開しています!

引き続き行われた情報交換会では、倶楽部会員、学生、大学関係者による活発な情報交換・交流が行われ、多くの参加者から有意義な会であったとの声が寄せられました。本学では、今後もサポーター倶楽部の輪を広げ、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」を推進してまいります。

クラウドファンディング

■目的 インターネットを通して、本学が設定した具体的なテーマやプロジェクトに共感した方や応援したい方から資金を募り、各プロジェクト事業を推進していきます。

■寄附者名簿 (R5.9～R5.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)

プロジェクト名:障がい児童生徒さんが、ご家族とともに外食を楽しむための輪を広げよう/プロジェクト実行責任者:井上 誠

〈個人〉	会田 生也	阿志賀 大和	足川 和隆	安島 久雄	安達 大雅	阿部 美幸	安藤 栄吾	飯田 貴俊	井口 清太郎
	伊佐 龍寿	伊藤 加代子	糸田 昌隆	福田 絵美	井上 富雄	猪股 昭博	上田 雅康	内山 智絵	内山 美枝子
	裏辻 雅崇	江頭 浩一	江口 悠美子	遠藤 聡一	遠藤 隆浩	大久保 明	大久保 昇	大重 裕紀子	大須賀 薫
	太田 智一	大瀧 祥子	大平 匡徹	大山 健輔	岡田 匠	岡安 一郎	奥村 清仁	小田島 あゆ子	落合 礼
	落合 勇人	小野 聖太郎	貝瀬 由紀子	海藤 真弓	梶山 理恵	片桐 啓之	加藤 直子	金沢 英哲	金田 昌己
	金子 慶尚	金高 弘恭	神岡 緑	神田 知佳	木島 寛	草深 多計志	國枝 顕二郎	鞍立 常行	倉本 尚美
	栗田 浩	解良 百合子	河野 正己	河野 雅之	古志 奈緒美	小西 充	小林 孝憲	小林 秀人	小林 仁
	駒形 雄氣	米谷 千晃	齋藤 昭彦	齋藤 あや	齊藤 陽子	堺 琴美	酒井 翔悟	阪口 英夫	佐々木 啓一
	佐藤 夏奈	佐藤 拓一	佐藤 義英	椎野 良隆	重村 憲徳	下畑 享良	chouchou.高橋智美	末廣 豊	菅野 亜紀
	鈴木 滋	鈴木 拓	鈴木 善貴	清野 真紀子	袖山 敬央	高橋 圭三	高村 真貴	高山 優子	竹石 龍右
	竹花 快恵	田澤 弘弘	田島 登吾子	多田 哲平	橋 泰昌	田中 明美	田中 佑人	谷 直樹	田沼 順一
	田峰 謙一	塚田 徹	土屋 信人	寺尾 浩子	寺尾 巳哉子	富原 圭	中尾 真理	中島 光太郎	長瀬 まり
	中村 由紀	奈良 とみ子	西村 裕貴	西本 純	野田 恵未	羽根 直仁	羽賀 忠大	服部 千夏	服部 千夏
	林 宏和	速水 いづみ	原 等子	原野 優	張替 徹	坂東 達矢	日水 円香	平岡 大作	平田 文
	平野 愛	平山 景子	福岡 達之	藤井 葉子	藤田 智史	藤田 一	藤谷 順子	朴沢 美生	堀野 一人
	本田 真人	本間 桜	前田 留美子	松井 宏	松香 芳三	松崎 正樹	松田 康伸	松永 和秀	松本 大輔
	丸山 利彦	萬田 陽介	三上 日登美	水田 栄之助	水野 吉広	道見 登	美藤 純弘	宮岡 里美	宮本 重樹
	森下 元賢	森山 大輔	八尾 正己	山下 庸	山瀬 裕子	山田 一尋	山田 律子	山本 悠	吉江 弘正
	吉田 忠浩	渡部 宏一	渡邊 賢礼	渡部 守					匿名希望147名

〈団体〉	医療法人青空会あおぞら歯科	朝日大学歯学部摂食嚥下リハビリテーション学分野	医療法人社団友和会いじま歯科クリニック
	医歯薬出版株式会社	医療法人社団耕新会いなぎ歯科クリニック	医療法人社団折笠歯科医院 理事長 折笠紀晶 鹿兒島大学小児歯科
	矯正歯科石井クリニック	株式会社クリニコ	クローバーデンタル クロスウィルメディカル株式会社 医療法人互尊会江陽高田医院
	医療法人社団越路会	理事長 佐藤 昭弘 (医)さくらい歯科クリニック	理事長 櫻井 正憲 サン歯科クリニック 浅見 浩之 杉本歯科クリニック
	介護老人保健施設健やか園	理事長 蒲澤 崇	田井デンタルクリニック 田井 秀明 高井歯科医院
	株式会社タケシヨウ	ティアアンドケー株式会社	
	とみた歯科クリニック	内藤歯科医院	新潟大学歯学部同窓会
	医療法人恒仁会新潟南病院	公益社団法人認知症の人と家族の会	
	医療法人社団ねりん会	理事長 山田 剛	医療法人社団野坂歯科医院
	医療法人林歯科医院	医療法人祥会古畑歯科医院	
	ヘンリーシャインジャパンイースト株式会社新潟支店	ホリカフーズ株式会社	医療法人明和会
			米沢市歯科医師会
			匿名希望8団体

遺贈によるご寄附

■遺贈とは 遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々にご寄附することを遺贈といいます。この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、サポーター連携推進室へお問い合わせください。
新潟大学遺贈寄附ページ <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/legacy/>

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

—学生の輝く未来を共に創る— 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」の支援に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R5.9～R5.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉大貫 俊二 小川 宏 菊池 利夫 鈴木 康寛 根岸 智也 笛木 隆弘 宮下 正弘 棟方 隆一 山崎 彌代一
吉田 滋 米岡 有一郎 米川 宏一 匿名希望13名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。令和4年1月に創設し、「新潟大学フェロシップ支援」「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R5.9～R5.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)
〈個人〉味岡 洋一 石田 武裕 小川 宏 寺田 剛 宮下 正弘 吉田 滋 米岡 有一郎 匿名希望7名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R5.9～R5.11寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉	青山 智香子	味岡 洋一	新井 啓	安藤 勝利	池内 健	石川 巳加	石田 武裕	井関 慶喜	板倉 慈法
	井手 協太郎	内山 政二	遠藤 国勝	大藏 幹彦	大嶋 康義	太田 隆	太田 雅彦	大塚 美弥子	大鳥 範和
	大桃 祐介	大山 俊之	小川 哲也	小川 宏	長部 タミ	小沢 綾子	金子 淳一	金子 峰	川口 剛
	川崎 和彦	川島 寛之	川端 和重	神田 敏行	神林 徹	菊池 利夫	木島 秀人	熊谷 敬一	倉持 元
	黒木 美恵子	駒形 直廣	齋藤 五月	酒井 邦夫	坂本 俊介	佐藤 純一	佐藤 拓一	佐藤 正道	澤野 久美子
	澤野 好裕	鈴木 孝昌	須藤 正二	瀬賀 弘行	関根 理	高木 敏之	高橋 姿	滝澤 哲也	竹田 弘
	田中 典生	丹野 尚	土田 克則	手塚 誠	遠山 徳一	徳江 郁雄	中川 敏行	長倉 成憲	仲澤 幹雄
	中平 啓子	中村 千佳	成澤 林太郎	西方 隆広	庭山 昌俊	野上 敦子	野口 公聖	橋本 武志	長谷川 英悦
	濱田 彰子	林 千衣子	番場 道夫	東尾 長	平澤 博一	平田 明	廣田 巨樹	藤森 勝也	逸見 和宏
	星山 真理	本間 一正	本間 隆	前田 研一	牧野 淳史	松浦 恵子	丸山 秀幸	水田 はなか	宮下 正弘
	宮村 治男	三輪 正明	武藤 孝司	村田 雅史	室賀 美紀子	森 俊彦	矢口 健二	矢内 俊裕	山口 英郎
	山崎 秀	山田 剛史	山田 由紀子	横野 知江	横山 綾美	吉田 滋	吉田 順子	米岡 有一郎	渡邊 さとみ
	渡邊 隆夫	渡辺 仁							匿名希望148名

〈団体〉あがの市民病院 株式会社アルコン 株式会社Alumnote 株式会社ウイザップ 越後ファーム株式会社 株式会社熊谷組 株式会社コーシン
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社ベンディング新潟支店 サントリービレッジソリューション株式会社 JA新潟厚生連柏崎総合医療センター
JA新潟厚生連新潟医療センター 一般社団法人新潟北蒲原医師会 一般社団法人上越医師会 株式会社第四北越フィナンシャルグループ
医療法人社団高木医院 医療法人高田西城会 一般社団法人茶道裏千家淡交会新潟支部 新潟医療生活協同組合木戸病院
新潟総合警備保障株式会社 新潟大学医歯学総合病院小児歯科・障がい者歯科診療室 新潟大学生協同組合 株式会社福田組
巻ライオンズクラブ 株式会社和光ベンディング 匿名希望20団体

■トピックス JX石油開発株式会社様からの寄附金目録受贈式を行いました

本学は、令和6年1月19日(金)、本学事務局棟第一会議室において、JX石油開発株式会社様からの寄附金目録受贈式を行いました。受贈式では、JX石油開発株式会社代表取締役社長の中原様から、「今春、新潟県胎内市に中条オープンイノベーションラボ(NOiL)の新事務所が完成予定であり、脱炭素社会に向けた様々な実証を行うとともに、新潟大学におけるSDGsの活動との連携を積極的かつ継続的に進めていく」とのお言葉がありました。牛木学長からは、「いただいたご寄附は、カーボンニュートラル融合技術研究センターで行う太陽光発電に関する研究と、本学で展開するSDGsの取組みに、ありがたく活用させていただく」と謝意を述べました。本学では今後も組織的な産学連携の推進により、豊かな未来社会を生み出す産業や社会のイノベーションを創出できるよう取り組んでまいります。



新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R5.9～R5.11入会・更新分)※(50音順 敬称略) 最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

【新規】	〈個人〉	辻川 尚明		
	〈団体〉	株式会社ディモルギア	TOPPAN株式会社	株式会社日本旅行新潟支店
【更新】	〈個人〉	荒田 学 滋谷 裕之 高橋 姿 二宮 登 根津 英美 吉田 順子		
	〈団体〉	エアブラック株式会社	医療法人メディカルビッドバレー	神山物産株式会社 株式会社サンケイ情報ファシリティ JA共済新潟
		JA全農にいがた	JA新潟厚生連	JA新潟中央会 JAバンク新潟県信連 新潟大学生協同組合 セコム上信越株式会社
		株式会社大光銀行	株式会社ツインバード	株式会社中野科学 ナミックス株式会社 新潟交通株式会社
		新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院	ダイヤモンド電子株式会社	株式会社廣瀬 北越メタル株式会社 株式会社マルタケ
		株式会社村尾技建	有限会社ヤスダヨーグルト	株式会社菱電社 匿名希望1団体

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

本学人文社会科学系附置地域映像アーカイブ研究センターがデジタルアーカイブジャパン・アワード2023を受賞しました



本学人文社会科学系附置地域映像アーカイブ研究センターが公開する「いがた地域映像アーカイブデータベース」が、2023年度のデジタルアーカイブジャパン・アワードを受賞しました。このデータベースは、新潟地域の生活のなかにある映像を発掘しデジタル化するだけでなく、その内容を整理、分析し、新たな社会の文化遺産として映像を甦らせるべく作業を行ってきた映像を集積したものです。

【受賞理由】

歴史的、民俗学的に意義のある地域資料を長期にわたり収集し、地域教育に活用してきました。利用に制限があるものの、豊富な地域資料を、ジャパンサーチでは自由に閲覧できるよう工夫しています。収録資料は、地域教育のほか、展示会やフォーラム等でも活用されています。こうした地域資料の収集に関する息の長い取組や地域に根差した活用の取組を高く評価しました。

なお、いがた地域映像アーカイブデータベースは、ジャパンサーチ<https://jpsearch.go.jp/>より、どなたでも自由に閲覧することが可能です。

本学は新潟市、開志専門職大学とマンガ・アニメに関する連携協定を締結しました

2023年10月23日、本学は、新潟市、開志専門職大学と、マンガ・アニメに関する連携協定を締結しました。

本学はこれまで、世界に類をみないアニメ中間素材アーカイブを核として研究・教育・アウトリーチ活動を展開してきました。この実績をさらに発展させるべく、「マンガ・アニメを活用したまちづくり構想」のもと様々な施策を行う新潟市、そして国際的なクリエイター養成を行う開志専門職大学と連携協力をします。

今後、アニメ中間素材アーカイブの更なる充実とアニメ中間素材展開催、各種市民向け講座開設等により、学术界・産業界における本学の国際的な知名度を高め、本学を世界各地から優秀な人材が集う「マンガ・アニメの研究・教育の世界的拠点」に押し上げることを目指します。



牛木学長がスリランカ、インドの協定校を訪問しました



2023年12月11日～18日、牛木学長は、スリランカ、インドの大学間協定校を訪問しました。学長による海外協定校訪問はコロナ禍後初めて、約4年ぶりのこととなりました。

スリランカのペラデニア大学では、学長や各学部長と学生交流や国際シンポジウムの共同開催等について、議論しました。

インドでは、デリー大学のほか、インド工科大学ルールキー校（IITR）、インド理科大学院大学（IISc）を訪問しました。デリー大学では、新たに大学間交流協定を結び、IITRでは、大学間交流協定の延長に関わる調印式が行われました。IIScでは、顕微鏡学施設など、最先端の科学技術施設を見学し、今後の多様な学生、研究交流の可能性を探りました。

本学は理学部を中心として、令和4年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択され、インド太平洋地域の大学と協同し、フィールド科学分野の専門家を育てる学生交流プログラムを実施しています。

今回訪問した各大学とも、学生の交換留学を通じ、国際的な舞台で活躍する資源やエネルギーの専門家を育成することとしています。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2024.WINTER No. 47

発行／2024(令和6)年3月
編集／新潟大学広報室
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話／025-262-7000

Home Page

<https://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

rikka@adm.niigata-u.ac.jp



定期送付のお知らせ

季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

